

1 委員会研究テーマ

「互いに認めあい、高め合える 話し合い活動のあり方」

2 研究内容

(1) 公開研究授業

期日 平成24年11月7日(水)
授業学級 栗ガ丘小学校 5年3組
授業者 春日 健二教諭
指導者 三水第二小学校長 今井 睦俊先生
題材名 「2年生と収穫祭をしよう」
授業場面

- 5年生が、姉妹学級である2年生との交流活動を計画する場面。ドッジボールをすることに決めたが、2年生との力の差を考慮し、ボールの投げ方を強く投げるのがよいのか、やさしく投げるのがよいのか、自分の考えを出し合った。
- 進行を計画委員会の児童がおこない、「強く投げる」立場、「優しく投げる」立場両方から活発な意見が出された。

強く投げる

- ・2年生も当たらずに楽しくない。
- ・2年生も5年生も楽しめると思う。
- ・1回目の時は優しく投げたら、みんな楽しみなさそうだったので、強く投げたら楽しめる。
- ・やさしく投げるってどうしたらいいかわからない。

やさしく投げる

- ・当たってもいたくない。
- ・優しく投げてほしい人が悲しい思いをすると交流が楽しくなくなってしまう。

悩んでいる

- ・強く投げた方が楽しめると思うけど、2年生の中には怖がっている人もいたので迷っている。

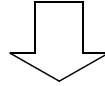
折衷案

- ・利き手ではない方でなければいい。
- ・ドッジビーでやればいい。
- ・助け合えば相手からの強いボールを止められる。
- ・コートをちっちゃくすればいい。

(2) 研究内容

○これまでの話し合い活動の振り返り

- ・児童が話し合い活動の中で、自分たちの問題として真剣に考え、主体的に参加することが少なかった。
- ・話し合い活動の仕方がわからず、事前の計画が十分できていないことや教師の支援不足から児童の自発的な活動になっていなかった。



原因として考えられること

- ・児童一人一人が話し合いの意義を理解していないことや、何でも言えて、お互いのよさが受け入れられる学級の雰囲気作りがしっかりできていなかった。
- ・話し合いの運営のあり方が確立しておらず、児童が意欲的に発言をするための教師の支援の工夫が足りなかった。

○効果的な話し合い活動が行われるために

- ・話し合い活動における計画委員会の役割を明確化、細分化して行う。
- ・活動計画カード（話し合いカード）を使う。
- ・ふり返りカードを使う。

3 研究の成果

- 計画委員会が進行を務め、クラス全員が共有している姉妹学級の2年生との交流についてが議題であったため、話し合いを身近に感じ、積極的な話し合いになった。
- 2年生のことを考え、さらに自分たちも楽しめる交流会になるよう、考えていた。事前に「強く投げる方がいいのか」「やさしく投げる方がいいのか」自分の意見をまとめてあったが、友達のことを聞いてさらに「こうしたらどうか」と考えた発言もあった。
- 自分がどの立場で意見を言っているのかが明確であったため、わかりやすい話し合いであった。

4 来年度への課題

(1) 研究の成果から来年度の研究へつなげる課題

○教師の出（支援）について

- ・公開研究授業では、折衷案が出たが生かし切れなかった。できるだけ教師の出は少なくしたいが、どの場面で交通整理をするのか、どの場面で適切な支援ができるのか研究を深めたい。

○話し合いのまとめ方について

- ・折衷案をどう生かすか、出されたたくさんの意見をどうまとめるか、皆が納得できるまとめはどうか研究を深めたい。

(2) 研究推進や運営について

- 推進委員の先生方がそれぞれの事例を持ち寄った研究は参考になった。今後も続けていくことができればと思う。

(3) その他

- 道徳・特別活動研究委員会は、道徳と特別活動を隔年で研究しています。今年度の研究は道徳なのか特別活動なのかを年度当初にはっきりさせた上で委員を募集した方がよいと感じました。